
バカ捜査線

馬河童

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカ捜査線

【Nコード】

N3229E

【作者名】

馬河童

【あらすじ】

とんでもないバカが出現！学園に潜むバカを見つけて逮捕せよ！

（前書き）

本日、過去にワープロで入力した文章をパソコンに復元することに成功しました。

この作品は私が最初に書いた小説です（厳密に言うと小学生の時に変な推理小説を書いてますが）。アホらしくてどうしようもないですが、文章格納庫を作りたいという目的もあるので、載せます。

良かったらご感想を頂けると幸いです。

私は子供の頃から健康優良児で風邪など一度も引いたことがない。小さな頃から元気にすくすくと育ってきた。ちなみに性別は男、年令は16歳で高校一年生だ。名前は山田大介というのだが、単純な名であり気に入っていない。

高校には入学したばかりで、まだ友達は一人もできていない。まあその内できるだろう。でもみんな勉強に夢中で「遊んでなんかいられない」てな顔をしている。私は勉強なんて大嫌いだ。入試でも適当に番号を選んだつもりなのに、なぜか合格してしまった。まあこれは、家が旧財閥ということも関係あるかもしれない。確かに両親もどういふ訳か息子の受験を全く心配していなかったようだ。私は特別な存在なのかもしれない。

入学して約二カ月、「近頃、校内にとんでもないバカがいる」という噂が立ち始めた。未だ友達のいない私は非常に興味をそそられた。そんな話を聞くと、一体どんな奴なのか、自分の目で確かめてみたい気持ちになる。思い立ったが吉日、早速私は噂の男を捜し始めた。

捜索は難航を極めた。目的のバカはなかなか見つからない。周りの奴らに尋ねようととも考えたが、勉強の邪魔をするのも何だし、自分で見つけだしてこそ楽しいのだと自らに言い聞かせ、捜査を続けた。しかし、懸命な捜索にもかかわらず、奴はなぜか私の前には姿を現わさなかった。みんなの間でかなりの評判の男だというのに、どうして私と遭遇しないのか？

ん…？男？よく考えてみれば、誰がバカは男だと言ったのだ？私は大変な勘違いをしていた。ウチの高校は共学だ。バカは女だったのだ！そう直感した私は、女生徒の中からバカを捜し出そうと、必死の捜索を開始した。クラスの女生徒を尾行したり、時には女子

更衣室まで潜り込んだりして、目的の人物を探り当てようとした。ついにはそういった行動が一人の女生徒に発見され、変態扱いまでされてしまった。これもみなバカのせいだ。見つけたらとつちめてやらんとな。

私が騒がれている間に、バカはまた騒ぎを起こしたらしい。何でも女生徒に危ない行為を働いたとか。私の先手を取っていたとは奴もやるものだ。しかし、この新情報から推察すると、やはりバカは男のようだ。またしても捜査は振り出しに戻ってしまった。

確かに女子の中には怪しい人物はいなかった。となると、男の中でも同級生だけでなく、二、三年生にも捜査を行なう必要がでてくる。ウチの上級生は不良が多くて、怖いという噂でもちきりだ。でもここまで来たら私にも意地がある。不良だろうと何だろうと調査を行なうことを決意した。

二年生に松田という不良学生がいた。この先輩はワルで他校でも有名だった。もしかすると、この人かもしれない。そう思った私は恐れを抱きつつも張り込み捜査することにした。最初は尾行して彼の家を探ったり、その近所で聞き込みをしたりした。しかし、松田先輩は喧嘩や万引き・カツアゲを繰り返すばかりで、一向に奇行を示さない。

そんなある日、私の目は先輩がレンタルビデオショップに入るのを捕らえた。案の定、先輩が借りたのはAVだった。これは面白いことになったと、家に帰る先輩の跡をつけることにした。

先輩が家に入っていくと、ドタドタと上に駆け上がるような音の外にまで響いた。これは二階にあるという自分の部屋でブツを見る気だな、と思った私はどうしてもその様子が見たくなってきて、コツソリと先輩の家に忍び込み、外壁を登って二階のベランダまで辿り着いた。

フハハ、予想通り松田先輩は部屋を暗くしてビデオを鑑賞しておられた。こいつは面白い光景だ。あの大不良の松田先輩が、私の目の前で性器を丸出しにして、エッチなビデオを食い入るように見て

いる。あまりの可笑しさに笑い転げて、私は足元にあったバケツを倒してしまった。ガランという音が響き渡る。

しまった！しかし気付いた時にはもう遅かった。慌ててズボン履いた松田先輩が、鬼のような形相をして目の前に立っていた。弁明する言葉もなく、めちゃくちゃに殴られた。ボコボコにされた私は御丁寧にも、燃えないゴミの日にゴミ捨て場に放り出された（たまたま今日がその日だったというだけだがね）。

三日後ようやく動けるようになり、出席した私にとんでもない情報流れ込んできた。何と、例のバカも松田先輩にちよっかいを出し、ボコボコにされたというのだ。またしても先手を打たれた。何者なんだ？こいつは絶対見極めなきゃならん。殴られようが蹴られようがもう引き下がる訳にはいかん。必ずやバカを見つけたしてやる。

私はもう一度身辺から洗い直してみることにした。初動捜査に誤りがあったのかもしれないので、クラスの奴からもう一度調べ直してみるつもりだ。このガリ勉軍団の中に絶対にバカがいる。そう確信して、捜査を再開した。しかし奴はなかなか尻尾を出さない。

そんな中、いつも一人でいる坂井という男を見つけた。陰気でオタク気なこいつは怪しい。そう思い、奴を標的にすることにした。私は奴の一挙手一投足を見逃さず、調べ続けた。トイレでは奴のサイズを目算し、驚かされた。何と通常時で15cm程もあった。奴は絶対普通じゃない。私の推理が確信に近付こうとしていた。

明くる日、私は奴を尾行していた。細身の奴はフラフラと帰宅の途を急いでいた。私も早足でそれを追う。しかし突然、進路は遮られた。目の前に立ちちはだかったのは、一人の警官だった。何をしているのかと聞かれた私はバカ正直に本当のことを答えてしまった。警官は有無を言わず私の腕を掴み、何処かへ連れて行こうとする抵抗しようにも彼の力は凄かった。近くの交番に連れて行かれ、説教をくらってしまった。

どうやら坂井の奴が私を怪しいと通報したらしい。全く失礼な奴

だ。怪しいのはどっちだ。おかげで一週間の停学処分だ。しかし、バカ探しを諦める気は毛頭なかった。私はどんな困難がつきまとうが捜査を続行しようと決心した。

次の日、バカが逮捕され、停学になったという噂が学校中に立っただ。たそうだ。全くどこまでも私の先に行く男である。甚だ感心させられた。

(後書き)

こんなのを書いている俺がバカだと思い、数日間悩みました(嘘)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3229e/>

バカ捜査線

2010年10月8日15時18分発行